

看護キャリア開発センター通信 Vol.9

H27.12 発行

☆潜在看護師復職支援プログラム開催☆

11月19日に、今年度2回目となる潜在看護師さんの復職支援プログラムを開催しました。3名の方が参加してくれました。「現状の臨床現場がどんな風になっているのか教えてもらえ参考になった」、「駆血帯の使用方法が分からなかったが教えてもらえてよかった」といった感想がありました。また、「人数が少なかったのでいろいろ聞きやすくてよかったです」といった意見もあり、講師と参加者の距離が近く気軽に質問ができたようです。復帰相談に参加した方もおり、復職に関する疑問など担当者と話し合いました。このプログラムが復職へのよい機会となりますように！

今年度の開催は終了いたしました。次年度も開催いたしますので、その際は知り合いの看護師さんにご紹介ください。



復職支援
技術演習風景



輸液ポンプの取り扱い



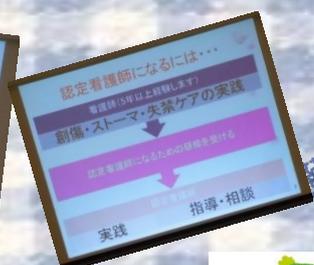
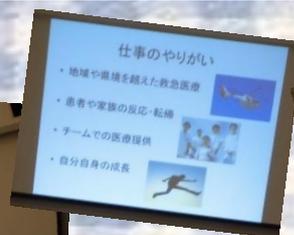
採血

☆第2回キャリア支援サロン☆

11月26日、12月10日に認定看護師をテーマにしたキャリア支援サロンが開催されました。

11領域の認定看護師さんが、日々の活動、認定看護の魅力、仕事のやりがいについてお話ししてくれました。認定看護師さんたちの活動内容について詳しく知ることができただけでなく、「後輩の目標になったと感じた」や「熱意や日頃知ることのできない活動を知ることができ、とても励みになった」というコメントもあり、話を聞くことで目標や意欲が湧いた方もいました。

次回の開催は未定ですが、キャリア支援サロンで聞いてみたいテーマなどあれば、看護キャリア開発センターまでどうぞ。ご協力して下さった認定看護師のみなさん、参加者のみなさん、ありがとうございました。



裏面へ続きます



☆看護研究をしよう☆

10月15日と11月26日に「看護研究をしようⅡ」研修を開催しました。この研修では、保健看護学部の教授である森岡郁晴先生が講師として教壇に立ってくれました。教育と病棟が連携しておこなう「看護研究をしよう」研修の感想を先生からお聞きしました。



今年は「看護研究をしようⅡ」を担当させていただき、研究デザインを中心とした研修を担当しています。研究デザインとは、研究計画書を作成する際に「おおまかな枠組み」をつくることを指します。

今回の受講生は10名と少なかったですが、皆さんの研修に対する意気込みを感じます。この背景には、研究するに当たり実際に必要な内容であること、あるいは、eラーニングで研究デザインを事前学習していることがあると考えています。さらに、すでに研究に取り組んでいる方がいるかもしれません。

研修では、eラーニングでの学びをベースに更なるスキルアップをすることが目的の一つです。eラーニングでの事前学習はとても良かったと思います。研修の内容で知らない部分は受身になってしまいましたが、事前に学習することで疑問などが出て、受講生と講師、双方向での話し合いが生まれ、活発になります。

「習うより慣れよ」という言葉がありますが、みなさん是非一度看護研究をしてみてください。実践が大切です。日々の問題や疑問にアプローチするようなテーマから始めてみてください。

看護研究を進めていく上で、分からないことや困った点が出てきたら、講義担当者である私のところに来てください。それも研究が終わってしまう前、早い段階に来てください。私自身も話をお聞きしますし、皆さんの研究テーマと合う先生がいれば、紹介させていただきます。



研修がどう役立っていくと嬉しいですか？



まず患者さんのために、看護師さんのスキルアップに、そして病棟環境向上に役立つと嬉しいです。個人の小さな研究テーマでも、積み重なると病院としては大きく違ってくると思います。一つの研究で全てが解決するわけではないですが、小さなことの積み重ねで大きな成果になっていきます。それで患者さんの治療が少しでもよくなればいいし、少しでも実践部分が良くなっていくといいです。

また、研究はその人のスキルアップに繋がります。なぜなら、本をよむ、論述の訓練になるなどスキルアップに繋がる要素があるからです。そして、普段の業務と違うことに取り組むことで、仕事のマンネリから解放されます。そうすると日々の仕事の楽しさや、やりがい生まれてくるのではないかと思います。さらに、もし研究でいい成果が出たしたら、現場に活かしていける。そこから患者さんへのメリットが一つでも増えていくといいですね。そのために役立ってほしいと思います。

看護研究はチームでおこなうものですから、研究は他人事ではなく、みんなで協力し合って進めていく。研究を通しての協力体制が、職場環境の向上に繋がればいいと思っています。

研究内容は大きなものでなく些細なものでいいんです。研究を嫌いにならないように、自分がしやすいテーマ、やりやすいテーマから取り組んでいってほしいです。でも、「こういう研究は違うな」と思うものがあります。それは「研究のための研究」です。自分の興味のための研究、自分の中で収まってしまわないものではなく、その研究が還元されることが大切だと思います。



看護研究の実践の大切さや、研究への取り組み方など熱く語って頂きました。森岡先生、ご協力本当にありがとうございました。

